

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1	生徒自身が自己の目標を見据え、課題に対して主体的・継続的に取り組む姿勢を養う。	【進路指導課】 [各教科]	自らの進路について主体的に考え、進路実現に向けて努力しようとする意識や向上心が不足している。模擬試験や検定試験・資格試験はもとより、進路選択に係る講話や体験活動において主体的な進路選択を促すとともに、その実現に向けた個別最適な支援計画を作成する必要がある。	【成果指標】 アドバンスクラス 模試偏差値 ベーシッククラス スタディーサポート GTZ (学習到達ゾーン) キャリアコース 商業検定	模試における英数国合計の偏差値が前回模試に比べて上昇した生徒の割合 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満 スタディーサポートのGTZがD1以上の生徒の割合 A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満 商業各種検定合格率が A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	模試・検定試験等の計画の周知、補習、検定合格者の校内掲示、卒業生による進路講話において意欲喚起する。また、スタディサブリを活用して学習習慣を定着させる。
	②習熟度(類型)別の授業・補習や学習課題等とおして、自ら学ぶ意欲を高める。	【教務課】 [各学年] [各教科]	生徒の学習習慣が定着していない。生徒が自己の学力を把握し、進路実現のための課題を明確にする必要があるため、生徒が自らの学力や進路に応じた個別最適な目標を設定し、課題に継続的に取り組める環境が必要である。	【成果指標】 自ら設定した目標について、主体的に行動できたか、達成できたか、成長を実感できたか、次の目標につながられたか、自己目標達成度を指標とした。	自ら設定した目標について達成した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	定期考査・模試・検定等に向けて学期毎に目標を設定・見直し・改善を行い、スモールステップで長期目標達成に向けて取り組む。
	③教育ICT環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実をとおして、確かな学力を養成する。	【ICT関連GIGAスタッフ】 [各教科]	R7 教員対象アンケートでは100%を達成した。その一方で、端末利用の在り方が画一的になりつつある。GIGA研修や互見授業をとおして、本校に導入されているICTリソースの特性に対する理解を深めながら、生徒主体の授業をより一層浸透させる。	【努力指標】 ICT研修や互見授業を通じて「GIGAスクール構想」に合った、一人一台端末を用いた授業づくりに取り組んだ。	一人一台端末を用いた互見授業に参加し、「GIGAスクール構想」に合った授業づくりに積極的に取り組んだ教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合は校内研修を実施する等改善策を検討する。	教員を対象にアンケート(年2回)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
2 規範意識と協調性を高め、自他を思いやる心を醸成する。	①学校内外の日常生活の場面で、TPOを前提とした判断と言動ができるよう支援する。	[生徒課]	校則等の決まりやルールに関しては、おおむね守られているが、社会的マナーに関してはできていない面がある。学校という狭い社会だけでなく、様々な場所・場面でその場に応じた言動や行動ができるよう日頃から教員側が意識して指導する必要がある。	【満足度指標】 規範意識をもって、その場に応じた言動や行動を考え、自ら選択することができる。	挨拶やその場に応じた言動・行動ができていない生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート (年2回)
	②学校行事や課外活動をとおして、多様性(ダイバーシティ)を尊重し、協働する姿勢を養成する。	[生徒課]	素直で優しい生徒が多く、他者を受け入れ、個々が自分らしく過ごせるからこそその協働する姿は見て取れる。しかし、少人数がゆえに、多様な視点や競争力が減っているように感じる。今年度は、学校行事等でより生徒が創造し、デザインする場面を増やすなどし、よりよい協働的な姿勢を育みたい。	【満足度指標】 日々の学校生活で良好な関係を築き、行事や校外活動においてより主体的・積極的に考え、取り組むことができる。	他者と良好な関係を築き、様々な活動において協働することができる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は取組内容を検討する。	生徒へのアンケート (年2回)

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
3 地域との交流・連携を密にし、創造的復興を意識しながら地域を理解し貢献しようとする姿勢を養う。	①地域資源(自然・人材・団体・企業)の理解を深め、自己や地域のより良いあり方を探究する力を養成する。	【総探コーディネーター】 [各学年]	生徒は様々な地域理解を深める活動に参加し、自己や地域のより良いあり方を探究する機会を得ている。活動の意義や成果のふりかえりの強化が必要である。	【満足度指標】 探究の時間の活動をおし、生徒が地域や自己のより良いあり方について考えることができる。	探究の時間の活動をおし地域や自己のより良いあり方について考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は取組容を検討する。	生徒へのアンケート
	②地域ボランティア等へ積極的に参加し、地域貢献意識を高め、課題解決力を養成する。	【生徒課】	大半の生徒が年間を通して参加できている。今年度は、生徒自らがボランティア等の地域貢献活動を見つけ、主体的な活動を促したいと考えている。	【満足度指標】 地域のボランティアやイベント等に参加した生徒が自己有用感を持ち、地域に貢献することができたと考えている。	ボランティア等に参加し、自分や地域のためになったと考えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は取組内容を検討する。	生徒へのアンケート (年1回)
	③ホームページ等で、生徒の活動の様子を積極的に情報発信する。	【総務課】	ホームページへのアクセス数が年々増加している。閲覧者の視点で内容を工夫してホームページの充実を図るとともに、メール配信等、これまで以上に積極的な発信に努める。	【満足度指標】 ホームページや学校だより等をおして、適切に学校情報や教育活動の様子がタイムリーに発信されている。	学校情報や教育活動の様子を知ることができる情報発信が、適切になされていると感じている保護者の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	保護者へのアンケート (年2回の学級懇談会時)

石川県立穴水高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
4 学校の教育力向上のため、組織力を高め、教師力の充実に努める。	①授業改善と資質向上に意欲的に取り組むとともに、組織的思考力や組織的行動力を高める。	【教務課】	教員一人にかかる業務量が増加し教材研究に充てる時間の確保が難しくなっている。他教員の授業を見て特長やスキルを教員間で共有し、少人数だからこそできる授業展開を再構築していく必要がある。	【努力指標】 教員が他教員の授業を参観する互見授業ウィークを年3回設定し、各回2授業以上（他教科1授業以上含む）参観する。	互見授業ウィーク中2回（年間合計6回）以上参観した職員の延べ割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	互見授業評価票の提出数から算出
		【若手教員早期育成プログラムコーディネーター】	今年度は初任者2名を含む若手教員5名が在籍し、中には校務分掌の主任も含まれる。円滑な学校運営のため、初任者の授業力向上や業務習得に加え、将来を見据えたリーダー資質の育成にも注力する必要がある。	【成果目標】 各期の若手がそれぞれの段階に応じた力を年間研修計画に即して身につける。また、若手教員が講師として研修を行い、担当業務以外の校務についての理解を深める。	校内研修の実施回数（互見授業参観・研修の講師役も含む）が A 25回以上 B 20回以上 C 15回以上 D 15回未満	年間計画の実施状況で判定する。	県教員総合研修センターの若手教員早期育成プログラム研修も含む
	②ワークライフバランスを推進し、業務改善の意識を持ち、効率的・効果的に業務を実践する。	【教頭】	少人数のため業務を一人で抱え込みやすく、環境ストレスや孤立感が高い現状にある。今後は仕事を「見える化」し、組織的な共有と承認を通じて互いに支え合う体制への改善が必要である。	【成果指標】 仕事の内容をオープンにして一人で抱え込むのを防ぎ、互いに励まし合える職場を作る。無駄を省いて心に余裕を持ち、環境によるストレスを減らす。	職員ストレスチェック集団分析において、「仕事の量的負担・仕事のコントロール」項目と、「職場支援」項目におけるストレスリスクが県内平均に対して A 両項目とも下回り、前年度より改善 B 両項目とも下回る C 片方の項目は下回る D 両項目とも上回る	C、Dの場合は改善策を検討する。	ストレスチェック集団分析
③危機管理の意識を高め、緊急時にも適切に対処できる学校組織を構築する。	【防災担当】 【教頭】	さまざまな災害、事故、感染症など、生徒の安全・安心を脅かす事態に対し、迅速で適切な組織的対応が求められている。	【努力目標】 想定される危機に適切な対応ができるような校内研修が行われている。	校内研修（講演会等含む）の実施回数が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	C、Dの場合は改善策を検討する。		

